

赤山古墳群

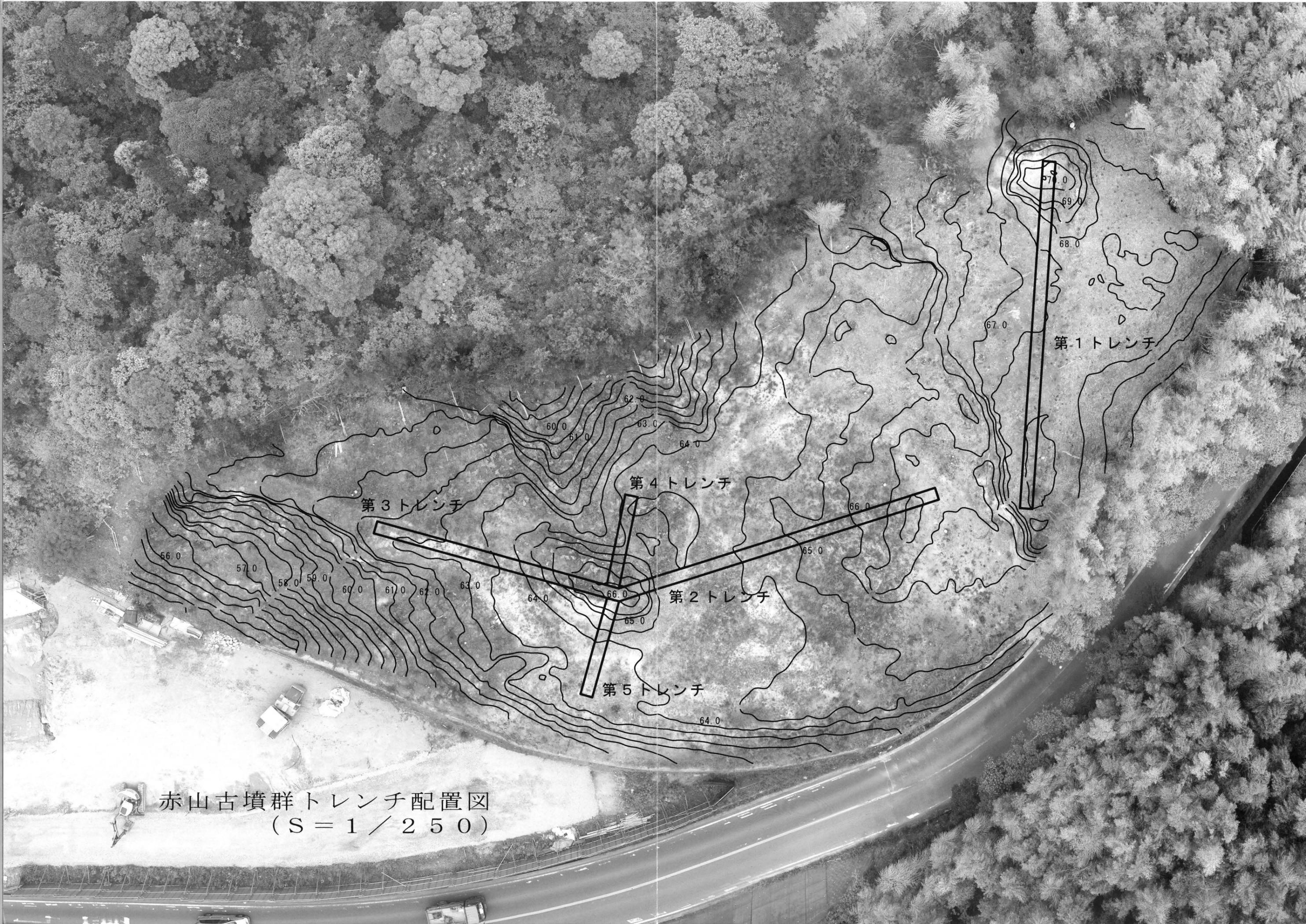
久米田池

赤山古墳群

発掘調査地

2005年3月

大阪府教育委員会



赤山古墳群トレンチ配置図
(S = 1 / 250)

はじめに

赤山古墳群は岸和田市岡山町に所在する古墳群で、行基の開発で有名な久米田池の南に位置します。南から伸びてくる丘陵先端にあり、ここからは段丘や低湿地が続くため視界を遮るものがなく大阪湾を一望できます。今回の調査は、尾生地区区画整理事業に伴う周辺整備の一環で道路が付け替えられることになり、古墳群の南端を削り取ってしまうことになる工事に先立って行いました。今回の調査に当たり、地元の皆様および関係者の方々には多大なご協力をいただき感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護に対するご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

大阪府教育委員会

文化財保護課長 向井正博

例言

- 1.本書は、一般府道春木岸和田線道路整備事業に伴う、岸和田市岡山町所在赤山古墳群発掘調査の報告書である。
- 2.調査は、大阪府土木部交通道路室道路整備課の依頼を受けて、大阪府教育委員会文化財保護課が行った。
- 3.調査に要した経費は土木部が負担した。
- 4.発掘調査は文化財保護課主査藤澤真依、遺物等整理は調査管理グループ技師林日佐子、藤田道子が担当し、平成16年6月から平成17年3月まで行った。
- 5.本書で使用した座標は国土座標第VI系(世界測地系)、方位は座標北、標高はT.P.(東京湾平均海面)である。
- 6.調査の実施にあたって航空写真測量・基準点測量を(株)シー・エム・シーに委託した。撮影フィルムは同社で保管している。
- 7.本書の執筆・編集は藤沢が行った。
- 8.この報告書は300部作成し、一部あたりの単価は150円である。

調査にいたる経過

平成15年11月岸和田土木事務所から相談を受け、翌日現地を踏査し、確認調査の必要および事前に樹木の伐採を行うよう指導した。樹木の伐採が終了した平成16年6月調査を開始した。

調査結果

道路用地内に直径約10m、高さ約2mの高まりが2箇所あり、ここから調査用の幅1mのトレンチを5本設定した。第1トレンチは東北に位置する高まりから南に28.0m、第2・3・4・5トレンチは南に位置する高まりから東北東方向に26.7m、西方向に20.5m、北方向に7.5m、南方向に8.0mである。

第1トレンチは、北端の高まり部分が表土、黄色粘土、黄茶色砂礫混じり土となる。南半部が表土、黄茶色砂礫混じり土となる。中央部が表土、黄色粘土と黄茶色砂礫混じり土の再堆積土、黄茶色砂礫混じり土となる。黄色粘土は黄茶色砂礫混じり土の上に堆積していた土で、南のほうがすでに削り取られているようである。

第2トレンチは、東・西端部が表土、黄茶色砂礫混じり土となる。中央部分は表土、灰白色砂となっている。灰白色砂は西端部の黄茶色砂礫混じり土の下に続いていく。

第3トレンチは、東端高まり部分が表土、黄茶色砂礫混じり土、斜面部分が表土、灰褐色土、茶色砂礫混じり土となっている。灰褐色土から須恵器小破片が1片出土した。明確ではないが、奈良時代の双耳壺らしく、蔵骨器の可能性が考えられる。

第4・5トレンチは表土、黄茶色砂礫混じり土となる。

表土直下はほとんど山土であり、高まりと高まりの間は相当に削平されているようであり、高まりはそのまま古墳ではないが、古墳であった名残である可能性は捨てきれない。

抄録

ふりがな	あかやまこふんぐん						大阪府埋蔵文化財調査報告2004-7
書名	赤山古墳群						赤山古墳群 発行 大阪府教育委員会 540-8571 大阪府中央区大手前二丁目 発効日2005年3月31日 印刷 (株)中島弘文堂印刷所
副書名							
巻次							
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	2004-7						
編著者名	藤澤真依						
編集機関	大阪府教育委員会						
所在地	〒540-8571 大阪府大阪府中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351						
発行年月日	2005年3月31日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あかやまこふんぐん 赤山古墳群	きしわだし 岸和田市 おかやまちょう 岡山町	27202	46	34 26 28	135 25 12	2004年6月 ~2005年3月	2,040	一般府道春木岸和田線道路 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
赤山古墳群	古墳	古墳~奈良時代				須恵器		